

強者の戦略

あなたが英語を学ぶ理由は、何ですか？

学校で授業があるから仕方なく？ 大学入試で必要だから？ このいずれかが主な理由に該当した貴方は、非常に申し訳ありませんがこのページを閉じてください。貴方の期待に添うような内容は、ここから先にはありません。

私自身はどうだったかと問われると…少なくとも、英語が好きだったからではありません。そもそも、英語は好き嫌いのレッテルを貼るべきものではない、と若き池吉少年は考えていました。しかし、第二言語を習得する際には、単に「必要だから」という理由だけでは継続的な努力に結びつきません。この日本という国に留まる限り、日本語さえ使えれば日常生活に支障がないので、「日本語だけでええやん」という、英語を学ばない言い訳がつい口に出てしまいがちです（ビジネスの世界に飛び込めば、そんな言い訳がもはや通用しないと分かるのですが…）。私が、結果的に英語講師として生計を立てられる程度に英語を学んでこられたのは、面白かったからです。単語を覚えたり、文法理論を学んだりするのが、ではないですよ（ある程度の苦痛は伴いました）。トップレベルの大学が出題する英文が垣間見せてくれるアカデミックの世界が、当時高校生だった私にはとても魅力的に感じられたのです。

今回の一題も、かつて私の知的好奇心をくすぐったという超個人的な理由（！）で選びました。もはや漫画やドラマでは陳腐すぎてあまり見られなくなった、記憶喪失ネタ。私が初めてこの文章を読んだ当時は、「えっ、記憶喪失って現実に起こりうるの?!」とビックリした記憶があります。その一方で、記憶に関する説明に何か釈然としないものを感じました。短期記憶と長期記憶が具体的に何を記憶するものなのかが、この文章からは読み取れない。読み取れないなら、自分で調べるしかない。斯くして、池吉少年の知的好奇心は大いにくすぐられ、大学時代に心理学の授業を取るに至ったのでした。

前置きが長くなりすぎました。本題に入りましょう。今回出題した問題は、次のようなものでした。

強者の戦略

問. 次の英文を読み、全文を 80~100 字の日本語に要約せよ。ただし、句読点も字数に数える。

Eight, five, seven, three, one, two. If I asked you now to repeat these numbers, no doubt most of you could. If I asked you again after a long talk, you probably couldn't — you will keep the memory for a short time only.

It seems to be the case that two quite different processes are involved in the brain in memory storage, one for the short-term — that is about fifteen minutes to an hour — and one for long-term memory. Many items of information find their way briefly into our short-term stores; most are discarded, and only a few find their way into the long-term store. While memories are in this short-term store, they are easily destroyed: by distraction, for instance — do you remember the number sequence we started with? — or by interference with the brain: by an epileptic fit, or concussion, for example. The film hero who wakes up after having been knocked out in a fight and asks “Where am I?” isn't joking; if the blow that knocked him out had been real it would have affected the electrical processes in his brain and so destroyed his store of short-term memories. But he will not have lost his store of permanent, long-term memories — indeed, it is extraordinarily difficult to erase them. Quite often in psychiatric treatment the psychologist tries to remove them by drugs, with electrical shock treatment, with insulin therapy, or psychoanalytic techniques, but usually with a very limited amount of success.

Indeed, when one comes to think about it, memory is perhaps one's most durable characteristic as an individual. I can lose limbs, have real organs replaced by plastic ones, alter my facial appearance with plastic surgery, but I am still “myself” — a complex of past experience, past memories, held tight and firm within my brain; only when I lose these do I cease to be myself.

- (注) epileptic←epilepsy : てんかん
concussion : 脳震盪 (のうしんとう)
psychiatric : 精神医学の
insulin therapy : インシュリン療法
plastic surgery : 形成外科

医学用語については注も与えられていますし、全体の語彙レベルもあまり高くありません。内容的にも記憶に関するオーソドックスな説明に終始していますから、既知の内容だった人は簡単に読み解くことができましたでしょう。

問題は、「要約せよ」という指示です。問題集の解説を見ても、「主張を書いて例を捨てなさい」「一番重要なことだけを書きなさい」といった、当たり障りのないことしか教えてくれないものが少なくありません。配点比率もそんなに高くないし、あまり大きく紙面を割いても…という打算が働いているのかも知れませんが、そこは太っ腹の強者の戦略。好きなだけ紙面を使って良いとお墨付きをもらっていますので、たっぷりと紙面を割いてゆこうと思います。

強者の戦略

問題文の和訳を与えておきましょう。あなたが作った解答が、果たしてこの和訳の趣旨と合致しているかどうか確認してみてください。

8、5、7、3、1、2。今、これらの数字を復唱するように求められたら、恐らく殆どの人が「復唱」できるだろう。長話の後で再び「これらの数字を復唱するよう」求められたら、恐らく「復唱」できないだろう。つまり、そのような記憶は短期間しか保持できないのである。

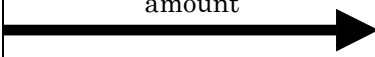
どうやら、記憶の蓄積に関しては2つの全く異なる過程が脳内で関わっているようだ。1つは、約15分～1時間という短期的なもので、もう1つは長期的なものである。多くの情報が一時的に短期記憶装置に入る。その大部分は捨てられ、ほんのわずかな情報が長期記憶装置に入る。記憶がこの短期記憶装置にある間は、容易に破壊される。例えば、他のことに気を取られることによって。あなたは初めに挙げた一連の数字を覚えているだろうか。或いは、脳への干渉、例えばてんかんの発作や脳震盪によって。映画の主人公が、戦いで打ちのめされ気を失った後、目を覚まして「ここは何処だ」と訊ねても、それは冗談ではないのである。気絶させた一撃が現実のものであったなら、その一撃は主人公の頭の電気系統に影響を与え、その結果、短期記憶の内容を破壊してしまっただろう。しかし、主人公が永続的な長期記憶の内容を失うことはないだろう。事実、それ「＝長期記憶」を消すことは極めて困難なのだ。精神医学療法ではよくあることなのだが、精神分析医は薬物や電気ショック療法、インシュリン療法、精神分析によって長期記憶を消そうと試みる。しかし、普通は非常に僅かな成功例しか得られない。

確かに、考えてみると、記憶は人間にとって最も耐久性のある個人的特性であるかもしれない。脚を失ったり、臓器を人工のものに取り替えたり、顔の作りを形成外科で変えてもらうということはありうるが、それでも私は依然として「私」のままである。過去の経験と、過去の記憶が、脳の中にしっかりと納められている複合体なのである。これらのものを失ったとき、初めて私は私でなくなる。

それでは、各パラグラフの論点を整理してゆきましょう。

第1パラグラフは、短期記憶 (short-term memory) の概念を導入しています。「8、5、7、3、1、2」といった一見意味のない数字の羅列は、短期間しか記憶できないことが、ここから読み取れます。

第2パラグラフでは、記憶には大きく2つの過程 (process) があることが述べられています。具体例が多く挙げられていますが、メインの軸はあくまで短期記憶と長期記憶の対比。この軸に沿って情報を整理すると、大きく3点あることが分かります。

short-term memory	difference	long-term memory
fifteen minutes to an hour	duration	permanent
many items of information	amount 	only a few
easily destroyed	fragileness	extremely difficult to erase

強者の戦略

ここで意識して欲しいのは、列挙の順番です。どの説明も、短期記憶→長期記憶の順番で説明が行われているのが分かります。英文では、後ろに置かれた項目の方が重要度が高くなります。この時点で、筆者は長期記憶を重要視していると感じ取っておく必要があります。

そして第3パラグラフでは、記憶と人間の関係に話が移っています。但し、1文目に「memory is perhaps one's most durable characteristic as an individual」とあることから、第3パラグラフにおける記憶は長期記憶を意味していることが推測できます。つまり、長期記憶こそが人間の最も耐久性のある個人的特性である、というのがこのパラグラフの趣旨なのです。

以上を踏まえた上で、要約を作成してゆくことになります。ここからは、要約の原則に基づいて作業を進めてゆきましょう。

(1) 要約するときは、文章全体の主張や結論を述べる文・パラグラフを中心に記述せよ。

「要約しなさい」と言われると、各パラグラフから満遍なくキーワードを拾って継ぎ接ぎだらけの文を書いてしまう人がいますが、それは明らかに間違っています。例えば、次の文はワープロソフトの要約機能を使って、多少の手直しをしたものですが、貴方にはこの文の問題点が分かるでしょうか。

短期記憶は短期間しか保持できないが、それは容易に破壊されるからである。しかし、永続的な長期記憶の内容を失うことはない。長期記憶を消すことは極めて困難で、これらを失うと、私は私でなくなる。(93字)

この文の問題点は、第2パラグラフの内容が要約の中心になっていることにあります。第3パラグラフの内容は最後に申し訳程度に含まれていますが、筆者の主張に当たるのはむしろこの第3パラグラフです。従って、要約する際にはこの第3パラグラフを中心とした構成にする必要があります。「第2パラグラフの方が分量が多いのに…」と感じるかも知れませんが、それは第3パラグラフの主張である「記憶＝人間の最も耐久力のある個人的特性」を支持するための背景知識を提供しているに過ぎません。

(2) (1) で使わなかった文・パラグラフは、パラフレーズのために使用せよ。

特に東京大学の要約問題は制限字数が短く、具体例などを入れる余裕は殆どありません。ですが、主張や結論を表す1文だけを訳して終わりなら、そもそも要約問題ではなく和訳問題になる筈です。従って、中心となる1文を見つけたら、その文にあるフレーズを肉付けするために、他の文からパラフレーズできそうな箇所を見つけることになります。

具体的にやってみましょう。「記憶は人間にとって最も耐久性のある個人的特性である。」(26字)を中心に置き、これに肉付けをしてゆきます。

まず、「記憶」は第1・2パラグラフで短期記憶と長期記憶の2つが導入されていて、更に第3パラグラフにおける記憶は長期記憶を示唆していることが分かります。2つの記憶の説明をすると字数は

強者の戦略

大きく稼げますが、無駄な情報を組み込むわけにはいきません。たとえば、短期記憶は短期間しか保持できず、長期記憶は永続的だという情報は、「短期」「長期」という接頭辞によって既に暗示されています。また、短期記憶が壊れやすいという情報も、「短期」という言葉から容易に推測がつかます。一方、短期記憶は多くの情報を抱えることができますが、これは「短期」という言葉から連想できませんから、余裕があれば書いても良いでしょう。ただ、そもそも第3パラグラフは長期記憶の話になっているのですから、こちらの説明に字数を割くべきでしょう。

長期記憶に関する説明を追加するに当たり、留意しなければならないのは、第3パラグラフの主張を補強する内容でなければならない、ということです。そのためには、長期記憶は永続的なものであり、消去することは極めて困難であることを述べる必要があるでしょう。「長期」という言葉から、この2点の含意を直接引き出すのは容易ではありません（長期間保持できるがいずれ消滅する、と考える方が自然）。ですから、この2点は要約に含めてやるべきでしょう。

もうひとつ、「個人的特性」という言葉も分かりにくいので、パラフレーズを試みてみましょう。幸いなことに、第3パラグラフ最終文に「only when I lose these do I cease to be myself」（これらのものを失ったとき、初めて私は私でなくなる）とありますので、ここから「アイデンティティ」という言葉を連想することができますし、そのまま「私が私でいられること」と置き換えても良いでしょう。

以上を踏まえて、解答を作成すると次のようになります。

記憶には短期と長期の2種類がある。後者は前者に比べて情報量は少ないが、永続的で消去が極めて困難なため、人間の個人的特性を支えるものの中で最も持続性が高く、アイデンティティを支える役割を担っている。(98字)

〈あとがきに代えて〉

この文章を改めて読んだとき、私が抱いた疑問点として、次のようなものがありました。

- ①短期記憶から長期記憶に移行する間に、具体的にどのような過程が生じているのだろうか？
(長期記憶に残る情報と残らない情報に、一体どのような違いがあるのだろうか？)
- ②記憶の分類には他にもエピソード記憶と意味記憶があるが、短期／長期記憶はこれらとどのような関係にあるのだろうか？
- ③そもそも、記憶が最も持続的というのは本当だろうか？ 記憶は、時として事実とは相反する内容をもつことがある。事実、アメリカでは虚偽記憶をめぐる論争が1990年代に起きている。それでも、記憶は持続的と言えるのだろうか？
- ④人間のアイデンティティは、記憶以外に頼るものはないのだろうか？

これらの疑問に対して、勿論私なりの答えは用意しています。当初はこれらに答えてゆく形でアカデミックの世界に貴方を誘おうかと思ったのですが、やはりやめておきます。

強者の戦略

あなたが真の強者で、この話に興味を沸いたならば、きっと私がちりばめたキーワードを頼りに自ら調べてみようとする筈。私がいきなり答えを開陳してしまうのは、貴方の知的好奇心を却って損なってしまうことになるのではないかと思ったからです（最近インターネットの発達でずいぶん便利になりました。その一方で、信頼に足る情報かどうかを自ら判断しなければならなくなっていますので、手放しでは喜べません）。

貴方が栄冠を掴み取った暁には、上述のような素朴な問いから始まり、本質的問題をめぐる熱い議論を繰り広げる日々が待っている…かもしれません。

それでは、今回はここまで。この2回分でウォーミングアップが終わりましたから、次回は頭がよじれるような難題で貴方を迎え撃とうと思います。乞うご期待！